

日本語学習者の代動詞「する」と「やる」の 習得について

—談話の結束性と代示性の観点から—

大塚 望

要 旨

日本語学習者は、同じ動詞を繰り返さず代わりになる動詞「する」を用いて効率よく話を進めていくという談話能力をどのように習得していくのだろうか。本稿では、日本語学習者が談話において代動詞「する」と「やる」をどう使用しているのか、レベル別の特徴は何かを明らかにするため、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス:I-JAS」を利用し、初級、中級、上級の使用について調査した。その結果、レベルが上がるにつれてサ変動詞や動詞句以外にも実質動詞の代用ができるようになり、その単位も動詞一語から文、文脈と広がっていくことがわかった。また、初級では「する」の代わりに「ある」を用いる誤用が、中級以降では指示語と「する」「やる」の結びつきの可否を間違える誤用が見られた。

キーワード 日本語学習者 する やる 話しことば 代動詞 結束性

1. はじめに

動詞「する」は、さまざまな要素と共起し多様な意味・機能を持つ動詞である。そして、言語運用において最も頻繁に出現する動詞であり、日本語学習者が習得すべき最重要語の一つであることは論を俟たない。さて、このような動詞「する」を日本語学習者はどのように用いているのだろうか。近年日本語学習者のコーパスが構築され、それを活用した研究が見られるようになったが、「する」についてはコロケーションの観点から研究したものがわずかに出始めたところである。本稿では、同じく学習者コーパスを用いて調査を行うが、談話の結束性や代示性という観点を設定して日本語学習者の「する」について考察する。

動詞「する」は大塚（2022）で述べた通り、他の動詞の代理あるいは代用表現

として用いられ、談話において結束性を保ちつつ効率的な展開を保証する役割を担っている。例えば、以下のようなものである。先行詞には二重線、その代動詞には一重線を付す。

A：自分でごはん作ります？

B：いや、しないな～。してないですね、ぜんぜん。

このように「作る」が「作らない」ではなく「しない」という形で引き継がれていくもので、その代示のあり方にはバリエーションが見られる。このような効率的な引き継ぎや自然な談話展開は日本語学習者に見られるのか、そして、どのような特徴があるのだろうか。

また、このような働きは「する」の類義語である「やる」にも見られる。

A：去年、同窓会開いたね。

B：やった、やった。やっぱりやると人って来るよね。

この例では「開く」がBの会話で「開いた」を繰り返すのではなく、「やった」で代用されて引き継がれており同様に代動詞であると考えることができる。

本稿では、動詞「する」とその類義語「やる」を取り上げ、代動詞としての使用が日本語学習者にも見られるのか、母語話者の使用とどう異なるのか明らかにしたい。そして、それを論じることで日本語教育の課題を整理し、同時に、「する」と「やる」の特徴を改めて提示したいと考える。

2. 先行研究と本研究の位置づけ

2.1. 日本語教育における「する」と「やる」の先行研究

日本語教育に関係する「する」と「やる」の先行研究を振り返ってみると、まず、日本語教科書における両者の扱いを調査し指導内容を提案したもの（大塚2014）、「やる」について指導のシラバスを提案したもの（渡辺2021）、コーパスを用いて「する」のコロケーション習得を調査したもの（鈴木・大神2022、鈴木2014、海野・鈴木2011）がある。動詞「する」が最頻出語で日本語学習者にとって重要な語であることを考えると、日本語教育の分野ではあまり研究されていない感がある。

本稿は、日本語学習者の使用する「する」と「やる」の代動詞用法を明らかにするもので、これまでこのような観点を持った先行研究は管見のところ見られない。改めて日本語教育からこれを見直せば、代動詞の用法とは、学習者が身につけるべきコミュニケーション能力の一つである「談話能力」に該当する（Canale & Swain1980）。この能力は、長い会話を続けていくために効率よくそして経済的・

合理的に内容を引き継ぎ、そしてその引き継ぎに適切な言語形式を充てる能力で、そこには、話し手と聞き手の関係性、情報の新旧の把握、主題の一貫性とその管理などさまざまなものが関係する。日本語学習者が十全なコミュニケーションを行うには、このような談話能力の習得は必須となる。本稿では、談話能力の一つである代動詞の適切な使用を焦点とし「する」と「やる」を考察する。

2.2. 代動詞に関する先行研究

先に述べたとおり本稿では、動詞の代示性や代用あるいは代動詞について分析していくが、ここで簡潔に代動詞の定義を確認しておきたい。なお代動詞に関する先行研究の詳細は大塚（2022）に譲り、本研究で重要となる概念についてのみ改めてまとめる。

大塚（2022）では先行研究を渉猟し、代動詞を以下の二つに定義し直した。

狭義的定義：先行テキスト（文脈）の中にある「動詞の代わり」として用いられる動詞

広義的定義：「先行テキスト（文脈）の代わり」として用いられる動詞
つまり、前文脈にある動詞を二度繰り返す代わりに「する」あるいは「やる」を用いる用法（狭義的定義）と、動詞一語の反復を避けるのではなく前文脈の幅広い内容を繰り返す代わりに「する」あるいは「やる」を用いる用法（広義的定義）という、二つの代示性が見られた。大塚（2022）では日本語母語話者同士の談話（日本語日常会話コーパス CEJC）を調査した結果、両者は動詞一語の代用だけでなく、さらに大きい単位である、句、節、文を代用すること、また、前の文脈全体の内容をまとめて「する」「やる」を用いて指し示すことがわかった。そして、その代用の範囲が広がると「指示語する」「指示語やる」が出現し、指示語と動詞が「一語化」して代示の機能を果たすことがわかった¹⁾。両者には相違点も見られたが、動詞「する」と「やる」は、日本語母語話者同士の談話の中で非常に効率的に言語的要素を引き継いでいることがわかった。これは、テキスト言語学で議論されてきた談話の結束性とも関わる問題であり、まとまりのある会話を展開する際にどう一貫性や結束性を持たせつつ効率的につなげていくかを担う重要な要素であると言える。以上のような代動詞の機能を日本語学習者の側から研究するのが本稿である。

3. 調査の目的と方法

改めて本稿の目的と具体的な課題を以下にまとめる。

目的：日本語学習者の代動詞の習得について明らかにすること。

課題1：日本語学習者が使用する「する」と「やる」は、代動詞の観点から見ると、どのような特徴が見られるか。

課題2：代動詞「する」と「やる」は、どの学習段階やレベルで習得されるのか。

課題3：日本語学習者が未習得である代動詞表現はどのようなものか。

本稿が注目しているのは動詞「する」とその類義語「やる」であるが、日本語母語話者（以下、母語話者と称す）が使用するような動詞の代用表現、もっと言えば談話能力における適切な動詞の引き継ぎが、日本語学習者（以下、学習者と称す）もできているのかということに関心の中心がある。そして、具体的には「する」と「やる」の使用を調査し、課題1と2を明らかにする。課題3は、母語話者なら使うであろうと考えられる代動詞「する」と「やる」が使えていないところはどこなのか。つまり、学習者が未習得である代動詞の用法はどのようなものかを調査するものである。

次に、調査方法だが、以上の課題を解決するには談話内容の引き継ぎや展開を見なければならぬため、「文脈」が必要である。つまり、話し手と聞き手が役割を交代させながら話が展開する談話、対話を用いる必要がある。大塚（2022）では、「する」と「やる」に見られる代示性を母語話者同士の話しことば（日本語日常会話コーパス CEJC）で探ったが、今回は学習者のそれを調査したいため、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS」を用いることにした。用いたデータは、発話データである「対話（I）」で母語話者（調査実施者）と学習者の30分程度の自然な会話である。

調査手順は、代動詞の機能を示す「する」と「やる」があった場合、前後の文脈と共に実例を抽出する。そして、そこに誤用があるか否か、そして代動詞「する」と「やる」の使用の特徴は何かを明らかにする。これが課題1と2の調査方法である。

残る課題3だが、未習得の代動詞「する」と「やる」の特徴をつかむということは、使用されるべきところで「使用されていない」ところを見つけるとのことである。そのため、通常行うような検索では「使用されていない」ために抽出することができない。そこで検索機能は用いず、「対話（I）」の発話データの全文を読んで確認するという方法をとった。したがって、調査には作業負担がかかり大量の分析には至らなかったが、これ以外に妥当な方法はないため、本稿では調査できた範囲での結果を提示することになる。

具体的には以下が分析対象となった学習者の属性である。初級，中級，上級の各レベル5名ずつを調査した。今回は母語や環境の影響については論じないため，言語能力テストのスコアからレベルを中心に選定した²⁾。

表1. 調査対象である日本語学習者の属性

ID	J-CAT スコア (レベル)	SPOT スコア (レベル)	出身地域	言語環境
JJE07	82 (初級前半)	48 (初級)	中国	国内教室環境
JJC04	104 (初級)	36 (初級)	ベトナム	国内教室環境
JJE38	124 (初級)	51 (初級)	中国	国内教室環境
JJC01	152 (初級後半)	49 (初級)	中国	国内教室環境
JJC03	186 (初級後半)	61 (中級)	中国	国内教室環境
JJC09	244 (中級前半)	66 (中級)	タイ	国内教室環境
JJC20	246 (中級前半)	63 (中級)	タイ	国内教室環境
JJE32	258 (中級)	78 (中級)	中国	国内教室環境
JJC31	269 (中級)	77 (中級)	台湾	国内教室環境
JJC45	280 (中級後半)	82 (上級)	台湾	国内教室環境
CCT10	307 (上級前半)	85 (上級)	台湾	外国
JJC37	316 (上級前半)	81 (上級)	韓国	国内教室環境
KKD01	320 (上級)	89 (上級)	韓国	外国
KKD07	332 (上級)	87 (上級)	韓国	外国
KKR43	355 (上級後半)	82 (上級)	韓国	外国

4. 動詞「する」と「やる」が代動詞である理由

調査結果を見ていく前に「する」と「やる」がなぜ代動詞なのか，何の代理となるのかについてまとめておきたい。

以下の発話に出てくる「俺のてんじょうび（誕生日）はやらない」の「やらない」は，前の文脈に出てきた「お祝い（パーティー，誕生会）をする」という動詞句の代用と解釈される。

JJE07-I-03510-C その中国ではね，〈はい〉，あの一何（なん）てゆうかな，生まれた時とか，誕生日とかなんかお祝いしますか？，お祝い，パーティーとか，誕生日会とか

JJE07-I-03520-K あるある，友達と一緒に〈うんうんうんうん〉，パーティーはカラオケは，うん

JJE07-I-03530-C あそう，〈はい〉，カラオケしたりするんだ，プレゼントとか

JJE07-I-03600-K え俺の一てんじょうび（誕生日）は、やらないね

「パーティーをする」は三つの要素「パーティー」「を」「する」に一応分けられるが、この三つは実質的には一つの連語を作り意味的にも構造的にも互いに密着している。つまり、それぞれが独立した単語として構成される一般的なシNTAXではない。それは、「パーティーを開く」と比べるとよくわかるが、「パーティー」「を」「開く」の三つの要素はそれぞれが独立した要素である。「パーティー」は、「開く」の具体的な対象であることを「を」によって示されている。しかし、「パーティーをする」の「パーティー」は「する」の対象ではない。敢えて言えば、「する」という行為の具体的な内容を担っている部分であり、「パーティーをする」全体で意味が完成しているのである。「する」自体には動作や行為であることを示す以上の具体的な意味、実質的な意味がないからである。そのために、「を」という格助詞をとってはいるが、それは動作を受ける対象を示すものではない。

このように「する」は共起する名詞と強い結びつきを持つ（形態的緊密性と意味的補完関係）特殊な語結合を為す。そのため、これまで形式動詞、軽動詞、機能動詞と呼ばれてきたわけである。したがって、談話の中で「する」が代動詞として働く際は、共起する要素が省略されたというのではなく、共起する要素を含めた連語全体が「する」によって代用されたと見るべきである（詳細は大塚2022を参照）。つまり、「パーティーをする」という動詞句が「やらない」という形で引き継がれたのは、「パーティーを」が省略されたのではなく、「パーティーをする」全体を「やる」という動詞で受けたと考えるのが妥当であろう。そのような大きな単位の意味内容を引き受けられるのは、「やる」あるいは「する」そのものが意味的に漠然とした動作・行為しか表さないという特質によるものである。以下、このような理由から「～をする（動詞句）」、「～する（サ変動詞）」を代用する「する」と「やる」を見ていくこととする。

5. 初級レベル

以下では用例を示しながら、できること（正用）、できないこと（誤用）、誤用ではないがうまくできていないところの三つにまとめた。なお、例は学習者のレベル順（低い→高い）に並べた。また、代動詞の先行詞に二重線、代動詞に一重線（学習者の発話）と点線（母語話者の発話）、誤用に波線を付した。筆者の注記は【 】内に入れた。なお、（ ）〈 〉はコーパス制作者が付したもので、前者が学習者の言おうとした正しい表現、後者が聞き手の相づちである。Cは母語話者、Kは学習者の発話である。

5.1. 正用一動詞句の代用

JJE38-I-02750-C どんな人が多いんですか？男の人女の人

JJE38-I-02760-K 女の人多いです（です）〈うん〉、みんなはやっていな、せい、製造の人ねたぶん、んー女性が多いです

学習者がアルバイトで「製造の仕事をやっている」という話の中で述べたのが上記であるため、「やる」は「製造の仕事をやる」という意味で引き継ごうとしたと考えられる箇所である。

JJC03-I-01200-K あはい〈んー〉あのーしんちゃん、んーしんちゃん、はーあの頭がいいと思う

JJC03-I-01230-C なんかいつもおかしいことやってませんか

JJC03-I-01240-K あーや、やりやりました [笑] でも面白い〈んー〉うん皆が好き

JJE38-I-03330-C お父さんやお母さんに連絡をしたりする？

JJE38-I-03340-K うんしたいます（しています）

JJC03-I-03430-C 川に落ちたりしませんか

JJC03-I-03440-K あーしませんしません [笑]

以上「～をする」「～をやる」「～たりする」などが母語話者の発話に出てきた後、それを引き継ぐ場合に動詞句を繰り返すのではなく「する」と「やる」で代用させていることがわかる。

5.2. 誤用

初級レベルで見られた代動詞の誤用は、「する」を使うべきところを「ある」を使用するというものである。複数の学習者に見られたため、この誤用は初級レベルの傾向だと考えられる。JJE07 は誤用を見るため再掲した。

JJE07-I-03510-C その中国ではね、〈はい〉、あのー何（なん）てゆうかな、生まれた時とか、誕生日とかなんかお祝いしますか？、お祝い、パーティーとか、誕生日会とか

JJE07-I-03520-K あるある、友達と一緒に〈うんうんうんうん〉、パーティーはカラオケは、うん

JJE07-I-03530-C あそう、〈はい〉、カラオケしたりするんだ、プレゼントとか
JJE07-I-03540-K あるある

JJC04-I-01910-C あー、小さい頃（ころ）、なんかお誕生日の、パーティーとか、
家族でお祝いしましたか？

JJC04-I-01920-K |笑| えっとー、あまり〜【「しませんでした」が欠如】

JJC04-I-01930-C あんまりしてないんですか

JJC04-I-01940-K していません

JJC04-I-01950-C うん、あの、あんまりベトナムでは、誕生日はお祝いしないですか？

JJC04-I-01960-K あるけどー、私はあんまり〜【「しませんでした」が欠如】

JJC04-I-01970-C あー、そうですね 〈はいはいうん〉、ふーん、何（なに）が、
こう、おいしいとか食べたりしませんか？

JJC04-I-01980-K うん、おいしい物ー、あ、おいしい物ーあるけど 〈うんうんうん〉とパーティーじゃない

JJC04-I-01990-C あー、パーティーじゃない、あー 〈はい〉、そうですね、あの、
お友達とかともパーティーしたりしませんか？

JJC04-I-02000-K うんー、ません（しません）

JJC04 は「お祝いする」「食べたりする」を受けて発話する時に代動詞の「する」を用いず、「ある」で表現する誤用が多い。また、「あまり」「あんまり」の後ろに発言がなく、呼応する部分の「しない」を省略できるという誤った中間言語ができあがっているようにも思われた。

JJC01-I-03950-C そっかそっか、あのーお父さんやお母さんなんかにはどうですか？あなたは

JJC01-I-03960-K んー

JJC01-I-03970-C お父さんの誕生日とかお母さんの誕生日とか

JJC01-I-03980-K んーありません

JJC01-I-03990-C |笑| しないのか

JJC01-I-04000-K はい、しない

JJC01-I-04010-C そうですね、お正月にするのかな？ お正月、に、大きいこうイベントってゆうのは、お正月なんですかねー、何（なに）かしますか？プレゼント

JJC01-I-04020-K だ、ん？プレゼント、まあ、忘れた、たぶんないです

JJC01-I-04030-C あーそうですか、あの日本ではね、クリスマスとかバレンタインとかね、お誕生日以外にこうプレゼントしたりしますが、中国では？

母語話者は「しないのか」「お正月にするのかな？」「何かしますか？プレゼント」と、「プレゼントする」という動詞を「する」で代用させて展開させているが、学習者の方は「ありません」「ないです」で代用させてしまっている。一度だけ正しく「しない」と言えたのは、その隣接対にあたる母語話者の「しないのか」を受けて繰り返したところだけである。そして、母語話者同士ならこのまま代動詞「する」だけで済ませると思われる最後の発話で、母語話者は意味を確実にするために「プレゼントしたりしますが、中国では？」と再度、「プレゼントする」という完全形（フルフレーズ）を用いて、会話の意味の立て直しをしている。このように母語話者も相手が学習者になると、意味の伝達を確実なものにするために、代動詞でのつなぎを長く行うことを避ける傾向にあるようだ。

5.3. うまく使えていないところ

学習者がうまく代動詞を使えていなかったところは、以下のように一度出てきた動詞・動詞句を再びそのまま繰り返すパターンで、初級ではよく見られた。つまり、母語話者なら代動詞を用いて効率よく簡潔に引き継ぐところを、代動詞を使わずに再度完全形（フルフレーズ）で述べるという特徴である。

JJC04-I-01570-C あ、行かないんですか、あー、じゃお休みの日はどんなふうにご過ごしますか？夏休みとか冬休みとか

JJC04-I-01580-K うーん、つやすみ（夏休み）とか冬休みとか、も、仕事、しています

JJC04-I-01590-C 仕事しますか？

JJC04-I-01600-K はい、しご（仕事）しています【母語話者なら「して（やっています）」が自然か】

JJC01-I-01270-C 夜食べないことがずっと続いている〈はい〉、そうですか、中国ではみんなダイエットするのは、夜食べないんですか？

JJC01-I-01280-K 中国では、中国で、みんな、ダイエットします【母語話者なら「やっています」が自然】

JJC03-I-02570-C あーそうですか、あの一小さい頃（ころ）なんかこう家族と、なんか誕生日のパーティーとかもしたりしましたか

JJC03-I-02620-K あの一、みあの一友達とか一〈はい〉んーしあの一親類とか〈うん〉みんな一緒に集まって、パーティーをします【母語話者なら「やります」が自然】

6. 中級レベル

6.1. 正用

6.1.1. サ変動詞の代用

初級では見られなかったが、中級レベルではサ変動詞を繰り返さずに「する」だけで引き継ぐという代用が見られた。

JJC20-I-01230-C あーそう、その（連体詞）アプリは、無料でダウンロードできるんですか？

JJC20-I-01240-K は、できます

JJC45-I-00310-C すごいですねー、運転したんですか？

JJC45-I-00320-K こう、はい、いえ、しませ（しません）、こ、友達が

JJC45-I-04500-K はい、なので一〈うん〉私は最初に初級のクラスに行きました〈はい〉でも、皆もう半分のテキストを勉強していまして〈はい〉私はまだ、そこまではやらないですが〈うんうんうん〉そこ、そこその（連体詞）時はすごく大変でした〈あー〉と私は、かくほ、覚悟を持って〈はい〉自分で家で一から、もう一度勉強し始めました

JJC45 は自分の発話に出てきた「勉強する」を次に使う時に「やる」で代用している。このような、母語話者の発話ではなく自分の発話にある動詞の代用を自ら行うというのは、初級では見られなかったものである。それと同時に、「そこまでは」と自分の発話に対する文脈指示ができています。ただし、これができていたのは JJC45 だけで J-CAT のスコアでは中級後半だが SPOT のスコアは上級なので、自分の発話の代用と文脈指示ができるようになるのは上級レベルになってからだとも言える。

6.1.2. 動詞句の代用

JJC09-I-03170-C あーそうなんです ね 〈はい〉へー、あ、そうなんです ね、タイは英語を頑張ってるんです ね、日本も今から ね、小学校でも 英語をやると、していますけど、私は中学校の時から 勉強しました 〈あー、あ〉うん小学校は英語の授業なかったです ね

JJC09-I-03180-K 私小学校、五年生 〈うんうんうん〉 やりました

「やりました」の先行詞は可能性として「英語をやる」と「勉強する」の二つがあるが、それを限定せずに引き継ぐことができるのも代動詞の特徴である。

JJC09-I-02920-K {笑} 強い、はい、ひどいです ね 〈うーん〉、はい、ムエタイ練習は、大変

JJC09-I-02930-C ね、あそうですか

JJC09-I-02940-K でも好きだから練習して

JJC09-I-02950-C んー、今も できますか?

JJC09-I-02960-K 今、まだ できますけど 〈うんうん〉ここで、やったことないです ね、

母語話者は「ムエタイをする」を「できますか」という形で代示し、それを受けて学習者は「できます」「やった」と引き継いでいる。隣接対である母語話者の発話を真似たとも言えるが、うまく代動詞を使っている。

JJC45-I-02300-K んと、夜の市場で 〈うん〉いろいろな 屋台がやりまして 〈へー〉おいしい物もたくさんあります

JJC45-I-02310-C はーそうなんですか 〈はい〉 それは、毎晩やってるんですか?

JJC45-I-02320-K えーと、場所によって違います ね 〈はー〉ときどきいち、えとー、月曜日水曜日金曜日が やっています 〈あ、はい〉とき、と、あるところも、えっと火曜日と木曜日だけ

JJC45-I-02330-C あーそうなんですか

JJC45-I-02340-K と、すごく人気のところだったら毎日 やっています ね

JJC45-I-02370-C あそうですか 〈はい〉今月曜と水曜とかって、平日ばかり、こう、言っ (ゆっ) てたんですけど、土日、は やってないんですか ね?

JJC45-I-02380-K 土日はあまり やらないです ね

「屋台がやる」は格助詞の誤用だが、母語話者の「それは毎晩やっているんですか」という指示語を用いた「やる」を受けて、そのまま「屋台をやる」あるい

はその主題化した「屋台はやる」を「やる」で代用できている。複数回にわたって代動詞を用いることができるようになってきているが、やはり母語話者が代動詞を使用した後それを受けて学習者も代動詞を使うというパターンが中級の場合はまだ多い。

6.1.3. 文の代用

JJC31-I-01260-K 誰が一番飛び、ま、た、は、高い飛びましたとか〈うん〉そんな感じをやっていました

正しくは「そんな感じのことをやっていました」「そんな感じでやっていました」と言うべきだが、指示語と「やる」を用いて繰り返しを避けるという代用表現ができています。この場合は、前文脈の内容をまとめて「そんな感じ（のこと）」として指し示すが、ここに動詞として立てられるのは「する」または「やる」だけである。動詞が純粹に代動詞であるとは言い難いが、このような「指示語＋「する」「やる」」で代用するということが重要である。

JJC45-I-04500-K と私は、かくほ、覚悟を持って〈はい〉自分で家で一から、もう一度勉強し始めました

JJC45-I-04510-C あそうだったんですかー

JJC45-I-04520-K はいすごく一生懸命、勉強していました

JJC45-I-04530-C へー、じゃ、もう、クラスに入った時にみんな一よりも、こう、遅れていたんですね？〈はい〉その（連体詞）時入った時に

JJC45-I-04540-K でも〈ふーん〉私は、ち、そう、そうやって〈はい〉一から、最初から勉強し始めて〈うんうんうん〉んーその（連体詞）一学校、転校するまい（前）、には、もう、クラスの一位だったんです [笑]

少し前に述べた自分の発話をまとめて「そうやって」で引き継いでいる。以上、中級では代用される要素が動詞一語や動詞句だけではなく、文のレベルになる。特に中級レベルで「文脈指示＋代動詞」を習得し始めるようだ。

6.2. 誤用

JJC20-I-01390-C あー、じゃあの一、JJC20 番さんはこれから大学院に行きたいんですね？

JJC20-I-01420-K そして、もしこの（連体詞）手紙出さないと、できないですから、昨日ずーっと、お姉さんの電話終わって、手紙を書きました

「大学院に行く」を「できる(する)」で代用する誤用である。「する」が何でも代用できるわけではないことがわかっていない。

JJC31-I-01920-K スキーをしたことがないから, 〈うーん〉今年日本に戻りまし、戻ったばかり 〈うん〉, すぐ, す, 友達とスキーに行きました 〈ふーん〉, その(連体詞)時は, 〈うん〉初めてスキーを 〈うんうん〉体験したんですが 〈うーん〉, と, 難しいですけど, 〈うん〉でもほんと(本当)に, 〈ふーん〉えと, 印象に残りました

JJC31-I-01930-C そうですか

JJC31-I-01940-K 何十年(なんじゅうねん)からこんなことをやったことないから 〈はい, はい〉初めてやった気持ちは 〈うん〉とても嬉しいとか 〈うーん〉寒いけど, 〈うん〉でもほんと(本当)に心は温かいな(過剰使用) 〈あー〉感じがしますので,

「こんなことをやったことない」となっているが, 「こんなこと」は削った方が自然である。代動詞「やる」は大塚(2022)で述べた通り, 指示語を伴わないで単独で代動詞の機能を果たすという特徴があり, それが「する」との違いの一つでもあった。そのため, ここの単独使用の方が正用となる。

6.3. うまく使えていないところ

中級レベルでは一例だけ上手く使えていないと思われる例が見られた。「勉強する」という動詞がそのまま何度も繰り返されている。何度も実質動詞を繰り返すことに特別な意味がある場合もあるため, 繰り返すのが間違いや不適切とは一概に言えないが, 以下の例の場合は母語話者なら「する」「やる」で言い直すのが自然だと思われる。

JJC31-I-00330-C でも放送は台湾でも(でも)べできますよね 〈はい, ども〉その日本と台湾の 〈はい〉放送一学というかね, 違っていてなんですか?

JJC31-I-00340-K と, もちろん台湾でも勉強することができる【台湾でもできる】が自然か】んですが 〈はい〉その(連体詞)時は, えっと, もし同じの学校しとしても 〈うん〉他の学部に移動することは, 〈うーん〉それは一年もかかりますが 〈はい〉その時は, と, 同じ一年なので, もう一つの言語とか自分が興味を持っている言語 〈うん, うん, うん〉を勉強しよう【「やろう」が自然か】かなと思いましたから

7. 上級レベル

7.1. 正用

上級になると、代動詞が長く何度も使用され続けるようになる。以下例を示す。

7.1.1. サ変動詞の代用

KKD01-I-01460-K 電話全然しますね

KKD01-I-01470-C あーそうなんですか

KKD01-I-01480-K 毎日します

KKD01-I-01490-C えーすごーい {笑| <笑|}, 私なんか {笑| <笑|}, この前いつしたかなーって {笑| <笑|} へー <うん>, じ, 気が合うんですね <はい> お母さんと, ふーん, お母さんと一緒にどんなことするんですか?

KKD01-I-01500-K しますね, で, お母さんと年もあまり離れていま, いんない (いない) ので, はい

7.1.2. 動詞句の代用

JJC37-I-01560-C でもそんなにこうスキーをしたかったってゆう選手, 魅力って何 (なん) ですか

JJC37-I-01570-K あ, 最初は, したいと思ってしたん <うん> したことじゃ <うん> ありませんでした <はい> で, 私的な, 運動神経, 神経がいいといやれて (言われて) <うん> 運動してみないとなんかさそえて (誘われて), さそえてくれた (誘ってくれた) から <うん> あ, い, し, やってみようかと思って最初は <ほー> はじめ, て <うん> 一, 一年, くらいしかしなかったです

JJC37の発話では、「スキーをする」が「したい」「した」「やってみようか」「しなかった」と活用されて代用されている。

KKR43-I-00700-K あーたいぐちゅ (退屈) たいぐちゅ (退屈) なので, そればかりすると, たかもう, 頭が痛くなるので, 気分転換ってゆうかそー, んな感じで, 日本語をちょっと, し, あー一時間? 三十分ぐらい毎日, あ毎日じゃなくてもまあ, 一, い, 週に, 二度三度, して, す, 毎日, がそう何 (なん) てゆうか, ルーティーンみたいにそれをしたら, なんかこう, 試験の準備一, なんかじゃなくて, したいと思ってしたので

この発話も, 動詞句「日本語をする」を「して」「したら」「したい」「した」

と引き継いでいる。ただし、使い方としては代動詞の「やる」でつないだ方がより自然な日本語になる。

次の発話は、「誕生日を祝う」という話題が母語話者から提示された後、高校での過ごし方について学習者から長い説明が入る（長すぎるため以下引用はしなかった）。その後、かなり前に出現した「誕生日を祝う」の代わりに、「しようと思っても」「やりたくない」という代用表現が出現する。このような長い談話のやり取りを挟んだ後に、代動詞で引き継ぐことができるのは、上級でも後半の学習者であった。談話の一貫性・結束性、そしてそれを維持できるだけの作業記憶の容量があると言える。

KKR43-I-03360-K だから誕生日ってー〈{笑}〉いっても、その（連体詞）時は、もう学校終わったら十時なので {笑}

KKR43-I-03370-C 十一時とか、十二時とかあー、できないわね、はいそうですかー

KKR43-I-03380-K しようと思っても、私が疲れたのでー {笑} なんかもやりたくない私も【「誕生日を祝う」ことを指す】

7.1.3. 他の実質動詞の代用

上級レベルになって初めて出現したのは、実質動詞の代用としての「する」「やる」の使用である。

JJC37-I-00100-C ビジネスチャンスとおっしゃったけど韓国ではいらっしゃる前は何（なに）してらしたんですか？

JJC37-I-00110-K あー、私の会社を、小さい会社を経営してはいたんですけど〈ほー〉はい、まあ、それをちゅーと（ずっと）八年ぐらい〈へー〉やってました「やってました」は自分の発話の中の「経営する」を代用している。

KKR43-I-01770-C あーそう、あなたと、弟さんはギター弾ける？

KKR43-I-01780-K いじえんじえん（全然）、できません、〈あー〉全然できないですが、弟は、ギターはできなくても、あピアノ、とか、ちょっと

KKR43-I-01790-C あー、でも

KKR43-I-01800-K 今はや、しないですけど、ピアノだけ

この「できません」「できない」「しないです」は前に出てきた「弾く」を代用している。

7.1.4. 文の代用

前に出てきた文レベルの内容を指示語と代動詞で代用する例が見られた。

KKR43-I-02040-K もともと、は、すえ、スウォン（地名）が、クエンヨクシ（韓国語で「広域市」）に、なる、そんな、〈あー〉計画があったんですけど、なんかこう、あー地理的に良くない、とゆうか、〈うん〉そんな感じで

KKR43-I-02050-C うん

KKR43-I-02060-K それができなかったので、

先行詞は「スウォンが広域市になる」という内容であり、その内容を「それ」で受けて動詞「する」を述語に立てるという代用の方法が用いられている。

KKR43-I-03060-K そう直接見ることも、あるんですけど、なんか、私が見る、には、テレビとか、PCとか、それ〈うんうんうん〉じゃなくてだめなんですから、私あんまりそれ、そんなの、しないんですから [笑]

「テレビやPCを見るということ」を「それ」で指示して「する」を述語に持ってきている。

7.1.5. 前の文脈をまとめて代示する

前の文脈全体をまとめて代動詞で引き継ぐという機能は、初めて上級レベルで見られた。

KKD01-I-02360-K あー先週末まではテストの期間一だったので〈うんうん〉、ちゅ中間テストの期間だったので〈うんうん〉なんか、課題したりレポート書いたり〈うん〉試験受けたりーしてすごくなんか、もう [笑] やりたくないと思って〈うんうんうんうんうん〉なんか、学校辞めちゃえ [笑]

「やりたくない」は前に述べた「課題をすること」「レポートを書くこと」「試験を受けること」など中間テストに関わる行為全体を含めた「やる」である。

KKD01-I-02200-K あ、で、あー私ーはなんか暇だったら〈うん〉、まあデパートに行ったり〈うんうんうん〉映画館に行ったりなんか外に、出て、出てあるーくーのーが〈うんうん〉好きですけど〈うん〉、歩いてなんか、買い物したり〈うん〉映画見たり〈うん〉友達のわカフェに行って〈うんうん〉、話したりするの
がいいんですけど〈うん〉、田舎にはそれが、できないと思います

「それができない」は、「そういったことができない」あるいは指示語を落とし

て単に「田舎ではできない」の方が適切だが、前に述べた内容全体をまとめて代動詞でうまく引き継いでいる。

KKR43-I-04100-K はいその（連体詞）、子と、一緒に、警備をしていました、私は、こっちを一のみ、見て、その（連体詞）とうき（同期）は、後ろ、私の後ろのほうを見ていました、はい

KKR43-I-04110-C {笑} そうかそうか

KKR43-I-04120-K そうゆけ、そうしていたん、ですけど、なんか、私は知らなかったんですけど同期が、寝ていました、その {笑}

「そうしていた」の内容は、前に自分が述べたことを指すものである。また、この場合「そうする」の「そう」が何を指し示すかは言語的要素を形式的に切り取ることはできず、「そうする」という全体で二重下線部の先行内容全体を代用している。

以上、二度繰り返すことはもはや無理なほど情報量のある事柄をうまく指示語と代動詞で引き継いでいることがわかる。

KKR43-I-00760-K 辞書で、なんかか（語の説明）、か（語の説明）一だとゆうと、か（語の説明）で、か（語の説明）の一ページをめくると、〈はい〉なんかか（語の説明）と、漢字が

KKR43-I-00770-C ありますあります

KKR43-I-00780-K はいじゃその（連体詞）漢字、を一けー、そ何（なん）てゆうか、書いてみたり、いっばい、てそうして、それ、そんなふうに、辞書一、を？そんなふうにして、ら（語の説明）くらいまではその（連体詞）、その（連体詞）ように漢字を、すべて、おべ、覚えようと、〈うん〉したので、なんか、読めるのは、読むのがなんか、日本語で書いてる、なんか文章を読むのは、それなりに、できるようになりました

これも二重下線部の先行内容をまとめて「そうして」「そんなふうにして」と引き継いでいる。このような展開をしないと長い談話を効率的に引き継いでいくことはできない。

7.2. 誤用

上級前半レベルでも「する」ではなく「ある」で代用する例が一例だけ見られた。中級には見られなかったので、これだけが例外なのか、あるいは犯しやすい

誤用なのかはもう少し調査が必要である。

CCT10-I-00690-C あまり見ない、オッケーね〈はい〉後（あと）漫画、を読みますか？

CCT10-I-00700-K んーないです

「読みません」の代わりに「ないです」を使っている誤用だが、「しないです」も誤用であるため、どんな場合に「する」「やる」で代用できるかは習得が難しい可能性がある。

7.3. うまく使えていないところ

母語話者ならもう少し代動詞を多用するのではないかと思われたところが散見された。

JJC37-I-01730-K トリマ（トリマー）の勉強〈はいはい〉をしたいと思って〈ええ〉で、トリマ（トリマー）の勉強して【母語話者なら「やって」にするか】〈うん〉自分の店を、開いて（ひらいて）私のわんちゃんと一緒にいたいと思いきも〈うんーうん〉思う気持ちがあったんです、

JJC37-I-02010-K んー、時間はお金で買えるものではなくて〈うん〉私、今も自分の勉強が少し他（ほか）の学生さんよりは少し、遅いと思っています〈うんうん〉で、遅い、なんか、年を取って勉強するのは【母語話者なら「やる」か】、ん、な、何（なに）をしても時間が足りないと思うか〈うん〉そうゆうものです〈うん〉もし私が、若い頃にこの（連体詞）この（連体詞）勉強をしたらもっと良かったなど

JJC37-I-02020-C なるほど

JJC37-I-02030-K はい、思っていますから〈はい〉今はおそ、今も遅いのではないと思っていますけど〈うん〉もし時間がもっとあれば〈うん〉もっと勉強できる【母語話者なら「できる」「やれる」か】

以上の結果を表2としてまとめておく。○は調査の中で見られた機能に付した。

表2. 代動詞の機能とその習得の段階

	サ変動詞の代用	動詞句(～をする)の代用	他の実質動詞の代用	文レベルの代用	前の文脈全体を代用
初級		○			
中級	○	○		○	
上級	○	○	○	○	○

8. 考察

ここでは、各レベルについて考察を加えていく。

初級レベルについて気づいた点は、そもそもこのレベルの会話では一つの話題が広がっていかないということである。一つの話題が2, 3往復のやり取り（母語話者からの質問—学習者の答え—母語話者の意味確認—学習者による応答）で終わってしまい、内容的に代動詞の出番がないという印象があった。そのために、そもそも代動詞を使う必要があるところが少ない。したがって、初級レベルは発話を引き継いで談話を展開するという習得段階ではなく、文法形式や語彙の習得がまずは重要であることが再確認された。

そのうえで、談話能力という観点から見ると、うまく省略しながら効率的に話す部分（動詞句の代用）が見られたため、こういった点は習得し始めていることがわかる。ただし、まだ完全形（フルフレーズ）での繰り返しも多く、誤用ではないが流暢さに欠けるという印象を与える。また、単に代動詞の既に入っている母語話者の発話を受けて、そのまま繰り返しただけの発話も多い。しかしながら、このような母語話者の復唱が自然な代用を身につける機会になっているようにも見える。また、代動詞「する」ではなく「ある」で先行詞の動詞句を代用するという誤用を犯していることも初級の特徴であり、それは母語に関わらず出現した。例えば「パーティとかしますか」に対して「します」ではなく、「あります」と答えている。動作「する」ではなく存在「ある」で答えるという点が誤用の特徴で「パーティーをすることがある」という解釈によるものなのか、「パーティーがある」という解釈によるものなのか、原因は判然としなかった。

中級レベルは、初級レベルではできなかった文の代用が見られた点の特徴である。また、自分の発話にある内容を指示語と「する」「やる」で引き継ぐということも、初級には見られなかった点で、徐々に長い発話を展開する力をつけていることがわかった。ただし、中級前半のレベルには見られず、中級後半にならないとうまくできないようである。誤用としては、「やる」の場合には指示語はなくてもいいことが多いのに使ってしまうと違和感のある表現になってしまう例が見られた。ただし、この習得は難しいため、上級でも同じ誤用は見られる。

上級レベルでは、サ変動詞の代用、動詞句の代用、他の実質動詞の代用、文の代用、そして、前の文脈全体を受けての代用とすべての代用レベルが出現し、うまく使えていることがわかった。とりわけ、上級でできるようになるのが、実質動詞の代用と前文脈の代用である。そのためには指示語をうまく使って代動詞と

結合させて引き継いでいかなければならない。しかも、「する」は指示語との共起が必須の場合が多く、「やる」はその限りではないという点は、上級でも習得が難しいところであるようだ。また、特徴として、代動詞の使用は一度ではなく、複数回長く出現することである。また、さらに、長いやり取りを挟んだ後も談話の一貫性や結束性が保てるために、うまく代動詞で引き継ぐことができているのは上級後半のレベルだった。

最後に、母語話者の代動詞使用についても言及しておきたい。母語話者であっても相手が学習者となると、代動詞の用法のうち、広義の定義に該当する文レベルや前文脈を引き継ぐような代動詞の使用を回避している様子が見えてきた。これは、学習者の理解不可能を危惧したせいと考えられるが、こういった回避が学習のチャンスを奪う可能性もあり、特に、中級以降の学習者には自然な代動詞のインプットを多く与える必要があるだろう。

9. おわりに

本稿では、日本語学習者の代動詞の習得について明らかにするため、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS」を利用し、初級、中級、上級の各5名（表1）の各30分程度の母語話者との対話を調査した。その結果、表2のような代動詞の使用が明らかになり、レベルが上がるにつれて、サ変動詞や動詞句「～をする」以外にも他の実質動詞の代用ができるようになり、その単位も動詞一語から文、文脈と広がっていくことがわかった。しかし、上級レベルでも母語話者のような長い談話を展開していく能力は、上級後半にならないと習得できていないこともわかった。誤用という点では、初級では代動詞「する」の代わりに「ある」を用いる誤用がよく見られ、中級以降では指示語と「する」「やる」の結びつきの可否を間違える誤用がよく見られた。

今回は、15名の30分ずつの対話のすべてに目を通して分析するという方法をとったため、調査対象者を増やすことが容易でなかった。人数を増やして結果の妥当性を高めることが課題である。また、「する」と「やる」の代動詞の使用の相違については指示語との関係についてしか述べることができなかつたので、両者の習得の相違についても今後の課題としたい。

注

- 1) 指示語の部分が前の文脈の代わりになっているのではなく、指示語と「する」「やる」が一語化した連語全体が前の文脈の代わりになっていることがその特質である点が重要である。詳細は大塚（2022）を参照されたい。
- 2) なお、上級レベルについては国内教室環境の最高点が上級前半レベルだったため、外国環境から3名を加え、上級、上級後半を設定した。また、上級前半も適当な対象者が他にいなかったため外国環境から1名足した。

参考文献

- 海野多枝・鈴木綾乃（2011）「中級日本語学習者コーパスに見られる語彙的コロケーション—動詞『する』を中心に」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』No.7, pp327-345, 東京外国語大学大学院総合国際学研究院
- 大塚望（2014）「初級日本語教科書における『する』と『やる』」『創価大学日本語日本文学』24, pp15-33, 創価大学日本語日本文学会
- （2022）「日本語における代動詞—『する』と『やる』に見られる代示性—」『日本語日本文学』32, pp1-17, 創価大学日本語日本文学会
- 迫田久美子（2020）「I-JAS 誕生の経緯」迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬（編著）『日本語学習者コーパス I-JAS 入門：研究・教育にどう使うか』（pp.2-13）くろしお出版
- 鈴木綾乃（2014）「日本語学習者のコロケーション習得に関する研究：動詞『する』を中心に」東京外国語大学, 博士（学術）第178号
- 鈴木綾乃・大神智春（2022）「日本語学習者横断コーパス（I-JAS）に見られる多義語コロケーションの産出—動詞「する」「ある」に焦点を当てて—」『日本語教育』182号, pp95-109, 公益社団法人日本語教育学会
- 渡辺園子（2021）「自らの意志を表す動詞『やる』—日本語母語話者の談話における使われ方と学習者が学ぶべき用法—」『創価大学大学院紀要』第42集, pp361-377, 創価大学大学院
- Canale(1983) From communicative competence to communicative language pedagogy. In J. C.Richards & R.Schmidt(Eds.), *Language and communication*. 2-27. London:Longman.
- Canale & Swain(1980) Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*1:pp.1-47.

コーパス

『多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS』を利用

コーパス検索アプリケーション「中納言」中納言 2.7.0 データバージョン 2022.05

（おおつか・のぞみ，創価大学文学部教授）